



# 米国株 MARKET PICK UP



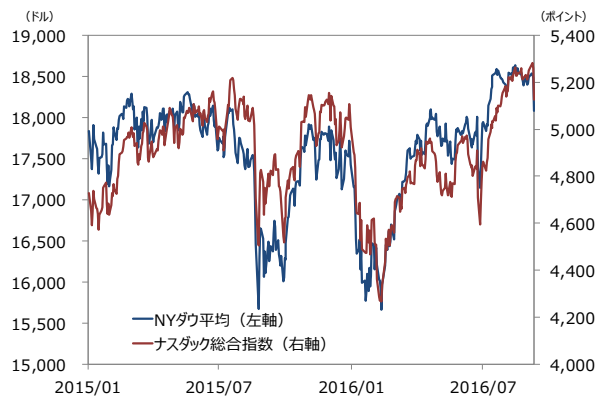
先週の米国株式市場—早期利上げ観測の高まりによる金利上昇を受け大幅安—

	前週終値	9月5日	9月6日	9月7日	9月8日	9月9日	週間騰落幅	週間騰落率
ダウ平均	18,491.96	休場	18,538.12	18,526.14	18,479.91	18,085.45	-406.51	-2.20%
騰落幅			+46.16	-11.98	-46.23	-394.46		
S&P500	2,179.98		2,186.48	2,186.16	2,181.30	2,127.81	-52.17	-2.39%
騰落幅			+6.50	-0.32	-4.86	-53.49		
ナスダック総合指数	5,249.90	5,275.91	5,283.93	5,259.48	5,125.91	-123.99	-2.36%	
騰落幅		+26.01	+8.02	-24.44	-133.57			

### ＜先週の概況＞

レイバーデーによる休場明けだった先週の米国株式市場は、8日木曜日まではほぼ横ばいで推移しました。9日にこれまでハト派寄りと考えられていたローゼンブロス連銀総裁が早期利上げに前向きな発言を行い、米金利が大きく上昇したことなどからダウ平均は1日で400ドル近い下げとなり、週間でも400ドル超の大幅下落となりました。

NYダウ平均とナスダック総合指数の推移



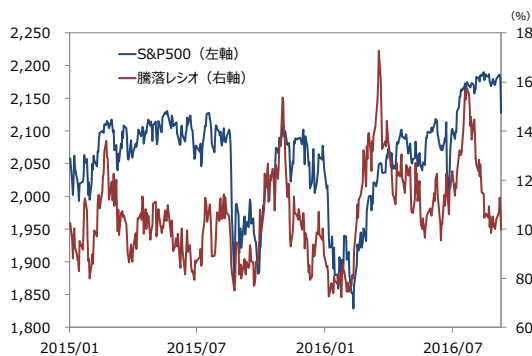
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

## 米国株式市場バリュエーション

指数	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想配当利回り
ダウ平均	17.1	3.1	2.7%
S&P500	18.1	2.8	2.2%
ナスダック総合指数	21.9	3.5	1.2%

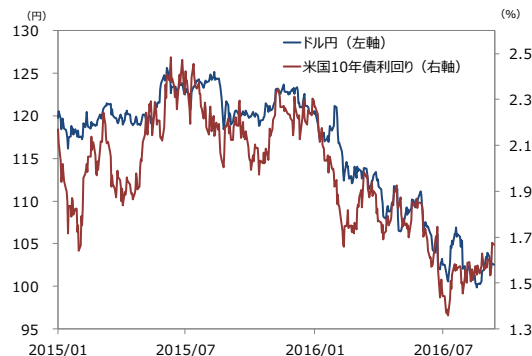
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成 (2016年9月9日時点)

S&P500と騰落レシオの推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

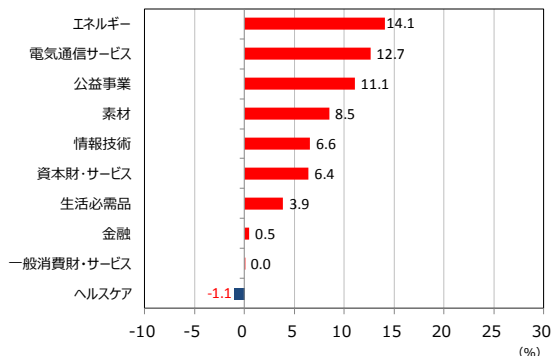
ドル円と米国長期金利の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

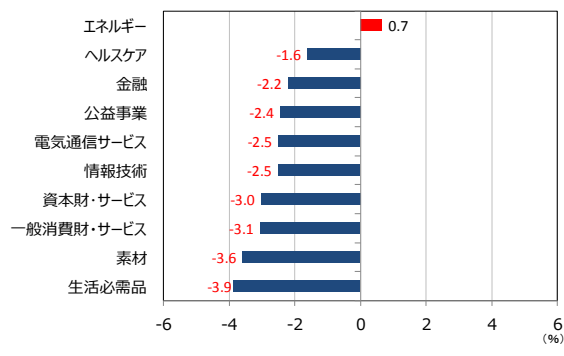
## 業種別リターン

S&P500 業種別年初来リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

S&P500 業種別週間リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

## ダウ平均採用銘柄 週間騰落率ランキング

値上がり率ランキング (9/5-9/9)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
CVX	シェブロン	0.3

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

値下がり率ランキング (9/5-9/9)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
HD	ホーム・デポ	-5.5
NKE	ナイキ	-4.6
AAPL	アップル	-4.3
UTX	ユナイテッド・テクノロジーズ	-4.0
GE	ゼネラル・エレクトリック	-3.8
TRV	トラベラーズ・カンパニー	-3.7
KO	コカ・コーラ	-3.2
CSCO	シスコシステムズ	-3.1
WMT	ウォルマート・ストアーズ	-3.0
MMM	3M	-2.9

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

### <上昇>

ダウ平均採用の30銘柄中上昇したのはシェブロン(CVX)1銘柄のみでした。原油価格が比較的堅調に推移したことから買われたようです。

### <下落>

5%超下落したホーム・デポ(HD)のほか、ナイキ(NKE)・アップル(AAPL)・ユナイテッド・テクノロジーズ(UTX)の3銘柄が4%以上下落しました。アップルは新型iPhoneの機能に大きな驚きがなく、投資判断の引き下げがあったことなどから売られました。

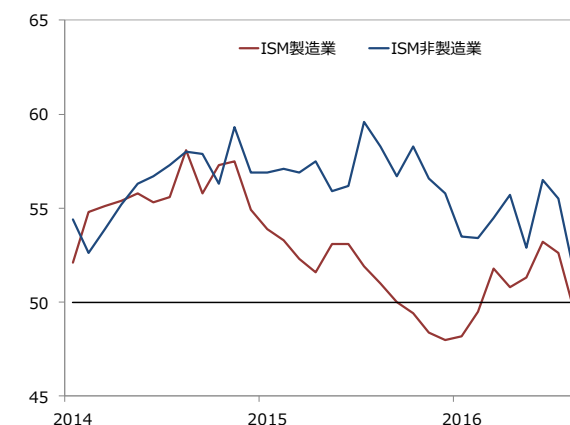
## 先週発表された主な経済指標

ISM 非製造業景況指数 8月 51.4 市場予想 54.9 前月 55.5

6日に発表されたISM非製造業景況感指数は51.4と前月の55.5から4.1ポイントの大幅悪化となり、市場予想を大きく下回りました。指数の内訳をみると、新規受注が前月の60.3→51.4に、業況が59.3→51.8にそれぞれ大幅に悪化するなど内容も良くありません。

先に発表された製造業と揃って大幅に悪化したことで、米経済の先行きに対する不安がやや高まった格好となり9月のFOMCでの利上げ判断に影響を与える可能性があります。

ISM景況感指数（製造業・非製造業）



(出所)トムソン・ロイターデータよりマネックス証券作成

## 今後発表される主な経済指標

### 8月分

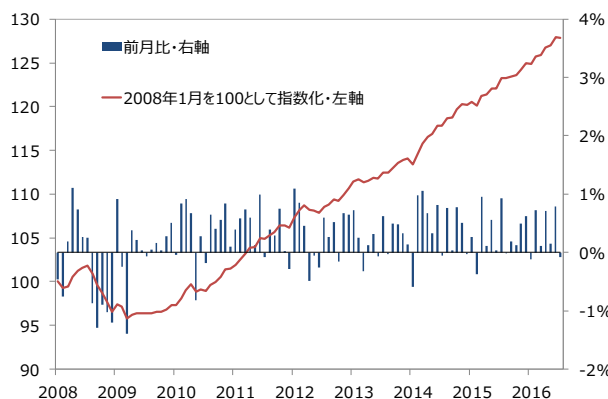
小売売上高（前月比） 市場予想 -0.1% 前月 ±0%

自動車・ガソリン除く（前月比） 市場予想 +0.3% 前月 -0.1%

15日に8月の小売売上高が発表されます。16日に発表される8月の消費者物価指数と並んで9月のFOMC前最後の重要経済指標の発表となるため注目されます。

7月分は全体の売上高が前月比変わらず、変動の大きい自動車とガソリンを除いた売上高が前月比マイナスとやや低調に終わりました。8月の自動車・ガソリンを除いた売上高は+0.3%と増加すると予想されていますが、再び低調に終わった場合FOMCで利上げが見送られる可能性もありそうです。

小売売上高（自動車・ガソリン除く）



(出所)トムソン・ロイターデータよりマネックス証券作成

## マーケットビュー—FRB 高官の発言に注目がまる—

先週のマーケットビューでは ISM 非製造業景況感指数や労働情勢指数などの経済指標の結果を受けた利上げを巡る思惑がマーケットを動かしそうと記しました。これらの経済指標は事前の予想を回るやや低調な結果で9月のFOMCでの利上げ実施予想はやや後退していましたが、金曜日のローゼンブレンボストン連銀総裁の利上げに前向きな発言を受けて株価は大幅に下落しました。

今週は小売売上高や消費者物価指数といった指標のほか、ロックハート総裁、カシュカリ総裁、ブレynaード FRB 理事など FRB 高官たちの発言が予定されています。ローゼンブレン総裁の発言がマーケットを大きく動かしただけに利上げについてどのような発言が行われるか注目されます。

フィナンシャル・インテリジェンス部 益嶋 裕

当社は、本書の内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想及び判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。当社は本書の内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。本書の内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。内容に関するご質問・ご照会等にはお応え致しかねますので、あらかじめご容赦ください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号  
 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会